

日曜日の朝から千葉市にある千葉市科学館の一室で、30人ほどの小学生たちがカッターやノコギリやドライバを振るっている。

楽しそうに工作に励んでいるのは「千葉市少年少女科学クラブ」のメンバーだ。このクラブは工作などの実技を通じて、子供たちの創造力を伸ばし、科学や技術に対する興味を深め、豊かな人間性を育てていくことを目的としている。運営の母体は、発明の奨励や知的財産の啓発活動を行っている社団法人発明協会。子供向けのクラブ活動は1974年から開始され、千葉市のクラブは全国で二番目に古い歴史を持つ。2008年5月1日現在、全国47都道府県に202のクラブがある。メンバーの総数は9000人以上という。

「ものづくり」に自主的に取り組む子供たちを支援する 「(社)発明協会」



「僕たちは車を作るつもりなんだ！」子供たちの頭の中の設計図が形になっていく

千葉市少年少女科学クラブ会長の山本喜也さんは、「最初のはこぎり等工具の使い方やハンダ付けの仕方など基礎的な技術を覚えてもらい、簡単な工作からスタートします。設計図を引くような難しいことは少し後回しにし、子供たちの作りたいものを出来る限り形にして、「ものづくり」の楽しさを知ってもらいたいと思っています。継続生は、これまでの経験を生かして活動しています」と話す。昨今、理科や技術科が苦手な子供の増加が問題視されているが、山本さんによると、この春の募集では定員の3倍もの応募があり、女子も非常に多かったという。クラブの男女比は約半々だ。

「工作は苦手だったから、少しでも上手くなりたいと思って続けています。理科や図工の成績もちょっと良くなりました」

と言う。大江さんのように、クラブをきっかけに理数系が伸びて理系の大学や工業高専へ進学する人も多い。愛知県の刈谷少年発明クラブ出身者

には、日本の素粒子研究の先端施設である、カミオカンデ(岐阜県)の研究者になった人までいる。

クラブ活動で学んだり作ったりすることは、学校とは何が違うのか。普段は中学校の技術科の教師で、クラブの指導員を務める三宅健次さんはこう話す。

「最近の技術科の授業では、パソコンを使うことが多くなり、工作をするということが少なくなってきました。『ものづくり』には試行錯誤や遊び心が必要なのですが、学校では時間的制約があったり、理論を教えるければならなかったりします。その点、こうしたクラブでは子供たちの自由な発想を、どこまで実現できるか追求していくことができます」



技術や科学に興味を持つ女の子も少なくない



わからない点は積極的に指導員に質問する

「最近の技術科の授業では、パソコンを使うことが多くなり、工作をするということが少なくなってきました。『ものづくり』には試行錯誤や遊び心が必要なのですが、学校では時間的制約があったり、理論を教えるければならなかったりします。その点、こうしたクラブでは子供たちの自由な発想を、どこまで実現できるか追求していくことができます」

ところで、こうしたクラブ活動には道具や材料、教室を開くスペースなどが必要となってくる。JKAでは子供たちの『ものづくり』や科学への意欲をサポートするために、1998年から発明協会への補助事業を行っている。同協会発明奨励グループ創造性開発チーム副長の小山和美さんは「各クラブの材料費購入や研修会の費用、機関紙の発行など、補助金は子供たちの創造性や技術の向上に、非常に役立っています」と話す。

理系離れで技術大国ニッポンの凋落が心配されている。しかし、『ものづくり』に自主的に取り組む子供たちと、それを支援する組織が全国で活動し成果を上げていることは、心強いといえるのではないだろうか。(天城 祐)

競輪マークみつけた

〈財〉日本車両検査協会

昭和24年設立の日本車両検査協会では、自転車の輸出検査をはじめ、自転車の安全試験や消費者に直結した試験など、様々な試験・検査業務を行っています。

写真は、自転車用タイヤの耐久性を調べるための「自転車用車輪走行耐久試験機」。

日常の移動手段として、子どもから大人まで皆が乗る自転車。その安全性の確保はここ、日本車両検査協会の厳しい検査から始まっています。

